

14. 十二指腸漿膜にみられた粘液生産が豊富な平滑筋肉腫 (Leiomyosarcoma with abundant mucus in serosae of duodenum)

| | |
|-------|----------|
| 誌名 | 鶏病研究会報 |
| ISSN | 0285709X |
| 巻/号 | 384 |
| 掲載ページ | p. 207 |
| 発行年月 | 2003年2月 |

鶏病カラーシリーズ

14. 十二指腸漿膜にみられた粘液産生が豊富な平滑筋肉腫 (Leiomyosarcoma with abundant mucus in serosae of duodenum)

キーワード：十二指腸漿膜，平滑筋肉腫，粘液肉腫



写真 1. 腹腔内臓器（十二指腸，空腸，回腸，肝臓，卵巣）の漿膜面に，鶏卵大（3×2.5×2 cm）から米粒大の白色から淡桃色の腫瘍が多数みられた。

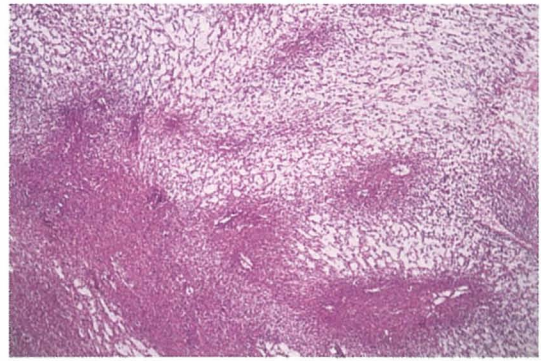


写真 2. 十二指腸漿膜部の腫瘍では，粘液性の基質を背景に細胞がまばらな部分と紡錘形の細胞が集まっている部分から成り立っていた。HE 染色。

動物：59 日齢，雌，ブロイラー（チャンキー）

発生状況および症状：症例は 2000 年 9 月に岐阜県内の食鳥処理場で処理された。

肉眼所見：腹腔内臓器（十二指腸，空腸，回腸，肝臓，卵巣）の漿膜面に，鶏卵大（3×2.5×2 cm）から米粒大の白色から淡桃色の腫瘍が多数存在した。腫瘍は半透明な部分があり，平滑筋腫より柔らかかった。微細な赤色巣が腫瘍の表面や断面にみられた。

組織所見：十二指腸の腫瘍は，粘液性の基質を背景に細胞がまばらな部分と紡錘形の細胞が集まっている部分から成り立っていた。細胞成分の密な部分での配列は不規則であった。腫瘍細胞はアザン染色で赤色に染色され，細胞間にはアザン染色で青く染色される膠原線維が形成されている部分もみられた。腫瘍細胞は，多くは紡錘形だが形は様々であった。網目状の細胞質をもつ細胞も認められた。核分裂像は，よく認められた。また，血管が豊富でうっ血している部分もみられた。うっ血部周囲では，腫瘍細胞が変性壊死しているのが認められた。十二指腸の漿膜面では，肉眼的に著変を認めなかった部分にも腫瘍細胞を認めた。また筋胃や脾臓の漿膜面にも腫瘍細胞を認めた。粘液性基質部分は，アルシアン青 pH 2.5

染色で陽性，PAS 染色陰性を示した。免疫組織化学染色で腫瘍細胞は， α 平滑筋アクチン陽性，デスミン，リゾチーム，S-100 蛋白陰性を示した。

解説：本症例では，免疫染色の結果デスミンが陰性であるものの α 平滑筋アクチンが陽性であったことから腫瘍細胞は平滑筋に由来すると考えられた。以上の成績から本症例を粘液産生が豊富な平滑筋肉腫（いわゆる鶏の粘液肉腫）と診断した。過去にブロイラーで平滑筋肉腫と診断された症例 [全国食肉衛生検査所協議会病理部会研修会における事例記録（症例 No. 1572, No. 1600, No. 1601, No. 1654），日獣会誌 54：41-50, 132-141, 301-309, 495-503（2001）] がいくつか報告され，その中で，肉眼的に腹腔内に多数の腫瘍が観察された症例（症例 No. 1600, No. 1601, No. 1654）も見られている。組織像については，本症例では膠原線維の増生や粘液産生が過去の報告（症例 No. 1600, No. 1601）と比較して顕著であった。免疫染色では，デスミンについて過去の報告（症例 No. 1600, No. 1601）では弱陽性であるが，本症例では，陰性であったが，細胞の分化度の違いによると思われる。なお，本症例の免疫染色を実施していただいた岐阜大学農学部獣医学科の酒井洋樹先生に深謝します。

著者：河田正史（Masashi Kawada），岐阜県関保健所，〒501-3756 岐阜県美濃市生櫛 1612-2